

「きょう土を開く
～旭川兵村での米づくり～」(11時間)

旭川市立神楽岡小学校 教諭 近田博信

4年3組 児童数：26名(男子15名,女子11名)

1 本単元について

(1) 学習内容に関して

本単元の学習内容に関わって、学習指導要領では、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を調べる対象として挙げている。また、見学、調査したり年表にまとめたりして調べることを学習の仕方として挙げている。さらに単元を通して、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができることを求めている。

また、具体的事例については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から、児童が先人の働きと地域の人々の生活の向上とを関連付けて考えることができる事例を選択して取り上げるとしている。

(2) 児童の実態と資質・能力を育むための指導の方向性

	児童の実態	資質・能力を育むための方向性
知識 技能	3年生「昔の道具調べ」の学習により、道具についての知識はあるが、屯田兵について知っている児童は20%以下で、その他の昔の様子についても知識が少ない。 観点に基づいて観察、調査する力はおおむね身に付いている。しかし、周りの諸条件と関係付けて観察、調査する技能は課題がある。	単元の導入で、旭川の米づくり及び旭川兵村や屯田兵について取り上げることで、基礎となる知識を身に付けさせるとともに、観察、調査の視点を明確にする。 また、取り上げる人物だけではなく、当時の人々の開墾や生活の様子を関係付けて観察、調査することで、技能の向上を図る。
思考 判断 表現	既習内容を基に、自分なりの考えをもち、言葉で表現する力をもっている児童が多い。また、グループで説明し合うことに楽しさを感じている児童もいる。しかし、既習事項を基に、社会的事象の特色や相互の関連などを考えることには課題がある。	社会的事象の特色や相互の関連を考える力を育むため、既習内容を基に自分なりの考えをもつための時間を十分に確保する。それとともに、教師からの問い直しや板書の工夫により思考の活性化を図る学び合いを展開する。
主体的に 学習に 取り組む 態度	社会科を「好き」と答えた児童は88%で、見学や調べ学習に興味をもって取り組む児童が多い。学習計画を立てて、調べる方法を決めると、家庭学習で事前に調べてくる児童も増えてきている。しかし、自分ごととして捉えることができない過去の事象に対しては、興味・関心をもちにくい場合がある。	社会的事象を自分ごととして捉えるために、現在につながる旭川の米づくりを紹介するとともに、開拓当時の様子に興味・関心を高めることができるよう、見学を通じた体験活動を取り入れる。

2 研究内容1 「子どもが社会とのかかわりを深める教材開発」について

(1) 研究内容1-① 「社会に対する関心を高める教材の選定」

本単元の内容について学習指導要領では、「地域の人々の生活について『地域の発展に尽くした先人の具体的事例』を見学調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」としている。そこで本単元では、地域の発展に尽くした具体的事例として、旭川の稲作発展の礎を築いた藤田貞元の営みを取り上げる。


道内有数の米どころである旭川は、水稻作付面積、収穫量ともに岩見沢市に次ぐ道内第2位である。旭川産米はその品質から人気も高い。

ところが、旭川兵村に屯田兵が入植した当時、北海道の冷涼な気候では稲作は無理とされ、兵村では稲作が禁止された。それにも関わらず、水田開発に異常なまでの熱意を注ぎ「水田狂」とまで呼ばれたのが藤田貞元である。

貞元は、必ず米ができるという信念と、米づくりを広めることで人々の生活を豊かにしたいという思いをもち、困難を乗り越えて米づくりを広めた。このことは、児童の共感的理解につながる。

また、兵村記念館、石碑、貞元が記した文書など、貞元の営みに迫る資料は多い。4年生の発達段階を考慮した資料の作成や提示の工夫をすることで、学習を充実させる可能性をもっている。

■「藤田貞元の営み」のストロングポイント



稲作が発展した旭川

米づくりが禁止されていた事実

必ず米ができるという信念

人々の生活を豊かにしたいという思い

営みに迫る資料

(2) 研究内容1-② 「小中7年間を見通した身に付けるべき知識・技能の明確化」

学習指導要領では、「これらの学習を通して地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」としている。そこで中核（考えて導き出す知識）を「藤田貞元は、必ず米ができるという信念と、人々の生活を豊かにしたいという思いで、禁止されていた米づくりを広め、地域の発展につながった。」とおさえる。

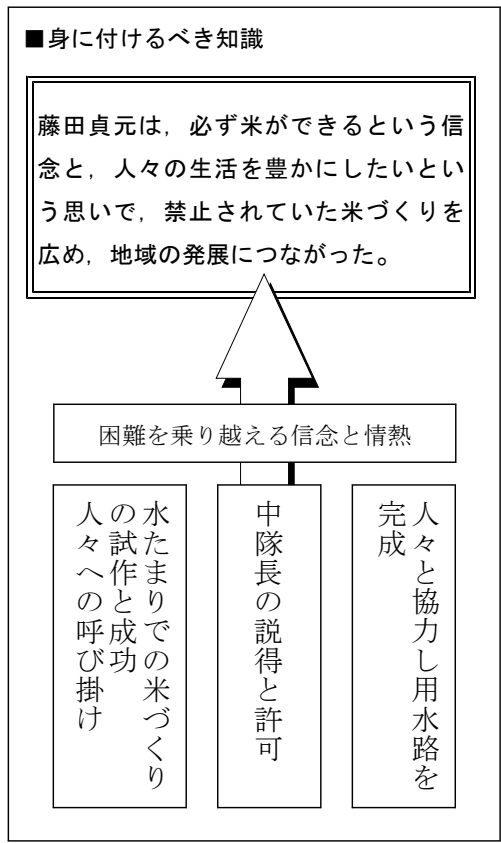
また、これらを導き出すために必要となる基本要素（調べて身に付く知識）として、以下の3点をおさえる。

「貞元は自分の家の水たまりで米を試作しそれがよく実ったので、米づくりを兵村の人々にも呼び掛けた。」

「試作の成功と強い信念をもとに中隊長を説得し、米作りの許可を得た。」

「水田開発委員となり、上兵村の人々と協力して水田に必要な用水路を完成させた。」

これら3つの基本要素を、「なぜ困難を乗り越えることができたか。」という視点を通して考えさせることで中核に迫る。



3 研究内容2「子どもが主体的・協働的に追究する学習展開」について

(1) 研究内容2-①「学習問題と向き合いながら、主体的に追究する単元構成」

■「つかむ」場面での工夫

旭川は米づくりが盛んだということを確認した後、写真資料を使って、現在から過去にタイムスリップし、自分の住む旭川で米づくりが始まったころの様子に関心をもたせる。また、わずか2、3年で原始林に水田が広がった事実と、米づくりを広めた人（藤田貞元）がいたという2つの事実から、「藤田貞元は、どのようにして米づくりを広めたのだろう。」という学習問題を設定する。

解決の見通しをもたせるために、貞元の功績をたたえる碑文の要約から、「試作」「人々の説得」「用水路作り」というキーワードを見だし、どのように行ったかを予想させる。予想を確かめるための方法も確認する。

■「まとめる」場面での工夫

調べてきた貞元の営みを年表にまとめることで、「試作」「説得」「用水路作り」のかかわりに気付かせ、学習問題のまとめを考える。また、兵村の人々は「米を作って食べたい。」という強い願いをもっていたことにも気付かせる。

■学習問題と向き合う単元構成

□つかむ

- ・ 2、3年で原始林が水田になった事実を基にした「学習問題の設定」
- ・ 解決の糸口となる碑文の要約を用いての「解決の見通し」

□調べる

- ・ 見学、インタビュー、資料を活用

□まとめる

- ・ 年表を活用し、調べたことを関連的に考える。

□深く考える

- ・ 実は米づくりが禁止されていたという事実を基にした「新たな問い」
- ・ 貞元の思いから学習問題の核心に迫る「問いに対するまとめ」

(2) 研究内容2-②「社会的事象の意味や特色、相互の関連について協働的に考える授業構成」

■「問いをもつ場」での工夫

これまで調べてきたこととは反する「米づくりは禁止されていた。」という事実を資料1として提示して疑問をもたせ、「貞元は、なぜ禁止されていたのに米づくりを広めたのだろう。」という新たな問いを設定する。

■「考えをつなぎ、深める場」での工夫

既習内容を基に問いに対する予想をもち、ペアから全体へと段階を追って話し合いをすることで、様々な角度から貞元の思いや願い、努力を考えさせるとともに、各自がもっている考えを徐々に収束させる。

次に、貞元が残した文章の要約を資料2として提示し、「人々の生活を豊かにしたい。」という貞元の思いを読み取ることで、米づくりを広めた意味に迫っていく。

さらに、貞元の思いを問い返していく中で、貞元は当時の人々の生活だけでなく、未来の人々の生活も考えていたことに気付かせ、考えを深めさせていく。

■協働的に考える授業

□問いをもつ場

- ・ 資料1から米づくりが禁止されていた事実を知る。
- ・ 新たな問いを設定する。

□考えをつなぎ、深める場

- ・ 既習内容を基に個人で考える。
- ・ ペア、全体で考えを説明し合う。
- ・ 資料2を提示し、貞元の思いについて話し合う。

□答えをまとめる場

- ・ 自分の言葉で「問い」に対するまとめをする。

□学びを振り返る場

- ・ 貞元の営みや思いを基にした振り返りをする。

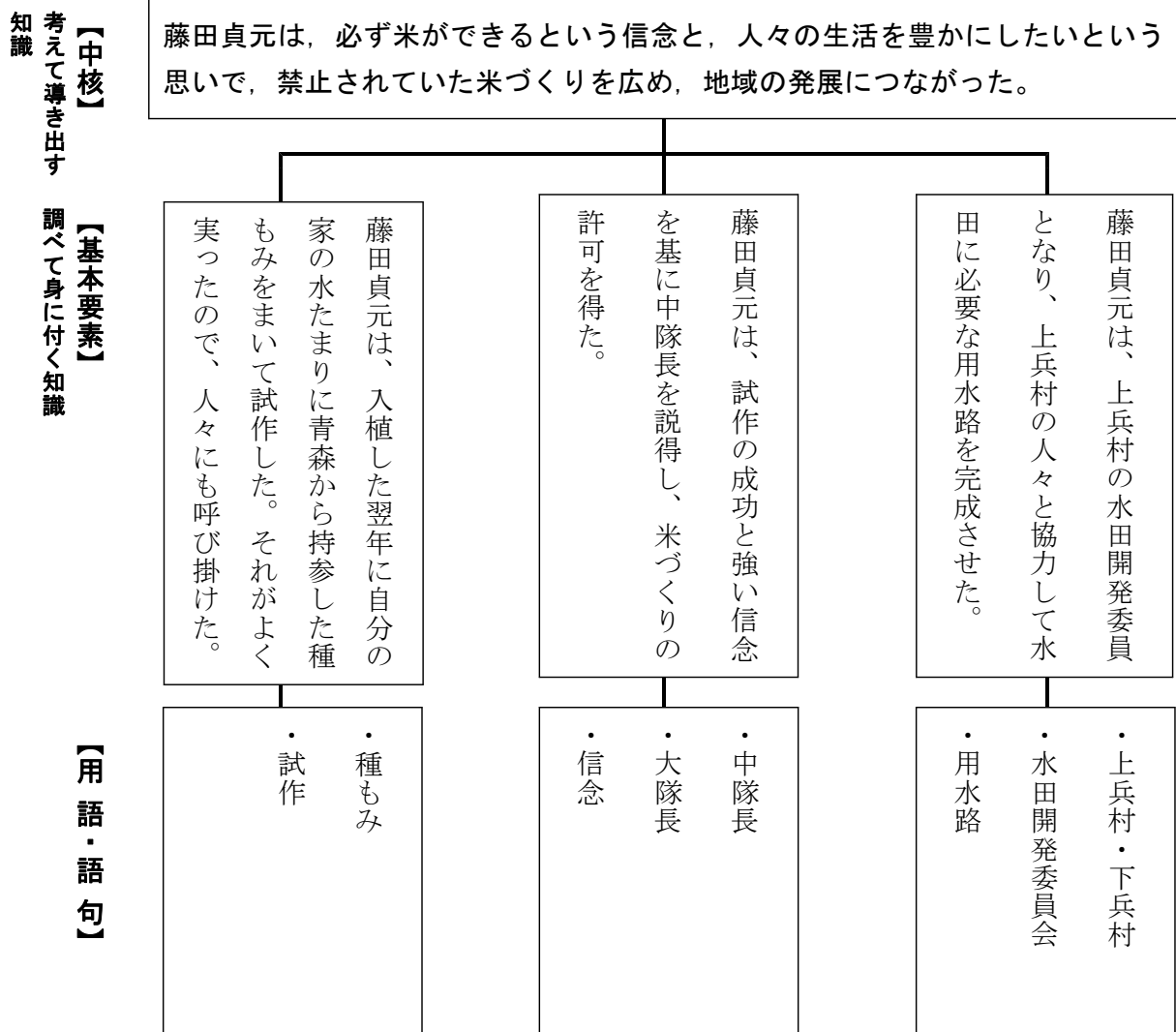
4 単元の見目標

藤田貞元の米づくりを広める営みについて、見学・調査したり年表にまとめたりして、貞元がさまざまな苦勞をしながら禁止されていた米づくりを広めたことを理解し、先人の信念や思いと地域の発展とのかかわりについて考えるとともに、先人の努力によって発展してきた地域に誇りや愛情をもち、そのよりよい発展について考えるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>旭川の米づくり及び旭川兵村や屯田兵について知識を身に付けている。</p> <p>藤田貞元の営みについて、兵村の人々の開墾や生活の様子と関連付けて調査し、必要な資料を読み取っている。</p>	<p>米づくりを広めた藤田貞元の営みの特色や相互の関わり、及び貞元の信念や思いを既習内容や新たな資料、他者の発言を通して考え、適切に表現している。</p>	<p>米づくりを広めた藤田貞元の営みについて、問いや解決の見通しをもって、主体的に調べたり、分かってほしいとしたりしている。</p> <p>地域のよりよい発展を主体的に考えようとしている。</p>

6 知識の構造図



7 小中の学習内容のつながり

「我が国の稲作」について歴史的背景や自然環境、他地域とのかかわり等から見た場合

中学校 地理的分野【日本の諸地域の特徴】

「東北地方～生活・文化を中心に考えよう」

④ 冷害を乗り越える農家

(教育出版 P 232～233)

- ・東北地方の農業について、冷害が発生しやすい一方で、稲の品種改良などの対策が工夫されてきたことを理解する。
- ・農業経営を安定させるため、稲作と果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考える。

※東北地方の稲作に関する自然環境に対応した工夫等が記述されている。

中学校 地理的分野【日本の諸地域の特徴】

「北海道地方～自然環境を中心に考えよう」

③ 日本の食料基地として

(教育出版 P 242)

- ・北海道の稲作を中心とした大規模な農業経営と日本の食料基地としての役割について理解する。

※北海道の稲作に関する歴史的背景と自然環境に対応した工夫等が記述されている。

小学校 第5学年【我が国の農業】

「米づくりのさかんな地域－山形県庄内平野－」(東京書籍 上 P 74～91)

- ・米づくりに従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを調べる。
- ・我が国の米づくりは、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考える。

小学校 第4学年【地域の人々の生活】

「きょう土を開く～旭川兵村での米づくり～」(本小単元)

- ・藤田貞元の稲作発展の礎を築いた営みを調べる。
- ・東旭川村の人々の生活の向上に尽くした藤田貞元の働きや苦心を考える。

※関連教材「アイヌの人たちの暮らし」「旭川開拓の始まり」を扱う。

小学校 第3学年【地域の人々の農作物の生産に関する仕事】

「農家の仕事～米づくりについて調べよう～」(副読本「あさひかわ」71～80ページ ※選択教材)

- ・自分たちの生活を支えている米づくりの仕事に関する仕事を調べる。
- ・稲作の仕事に携わっている人々の工夫を考える。

8 単元で身に付ける技能

	身に付ける技能	観察・調査、活用する資料	調べる内容
第4時 ～ 第6時	・周りの諸条件と関係付けて調査する。	・兵村記念館の見学と館長さんへの聞き取り調査	・米の試作 ・人々や隊長の説得 ・用水路作り
第7時 ～ 第8時	・資料から必要な情報を読み取る。	・副読本 ・教師が作成した資料	・米の試作 ・人々や隊長の説得 ・用水路作り

9 単元構成

※**知技**…知識・技能 **思**…思考力・判断力・表現力 **主**…主体的に学習に取り組む態度

過程	時	学習活動	学習評価
つかむ	①	【事象との出会い】 ○米袋や資料から、旭川は米づくりが盛んなことを確認する。 ○写真資料を基に、現在の旭川から過去へさかのぼる。 ○屯田兵と旭川兵村について知る。 ○学習の振り返りをする。	知技 旭川の米づくり及び旭川兵村や屯田兵について知識を身に付けている。 【ノート、発言】
	②	【学習問題の設定】 ○旭川兵村では、わずか2、3年で原始林に水田が広がったことと、米づくりを広めた人がいた事実から疑問をもち、学習問題をつくる。	主 米づくりを広めた藤田貞元の営みについての学習問題を考え、表現している。 【ノート、発言】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習問題】 藤田貞元は、どのようにして米づくりを広めたのだろう。 </div> ○学習の振り返りをする。		
調べる	③	【問題解決への見通し】 ○学習問題に対して予想をする。 ○石碑の要約文を基に、米づくりを広めた方法を考える。 ○調べる内容・調べ方を明らかにする。	主 米づくりを広めた藤田貞元の営みについて主体的に予想を考え、表現している。 【ノート、発言】
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ■調べる内容 ・米の試作 ・隊長の説得 ・用水路作り ■調べ方 ・兵村記念館の見学 ・副読本「あさひかわ」 </div> ○学習の振り返りをする。		
	④	【「事実」の追究活動】 ○見通しを基に見学、インタビュー、資料を活用して調べる。	知技 米づくりを広めた藤田貞元の営みについて、兵村の人々の開墾や生活の様子と関係付けて調査し、必要な資料を読み取っている。 【ノート、発言】
	⑤		
	⑥	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 米の試作 貞元は、自分の家の水たまりに持ってきた種もみをまいて試作した。それがよく実ったので、兵村の人々にも呼び掛けた。 </div>	
	⑦	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 隊長の説得 貞元は、試作の成功と、必ず米はつくれるという信念を基に中隊長を説得し、米づくりの許可を得た。 </div>	
	⑧	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 用水路作り 貞元は、上兵村の水田開発委員となり、兵村の人々と協力して水田に必要な用水路を作った。 </div>	
		○学習の振り返りをする。	

過程	時	学習活動	評価規準と評価方法
まとめ	⑨	<p>【「事実」から「意味」へつなげる追究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを交流する。 ○調べて分かったことを年表にまとめ、貞元がどのように米作りを広めたのか考える。 ○兵村の人々はどんな願いをもっていたのかを考える。 ○学習問題に対する答えを自分でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習問題に対するまとめ】 藤田貞元は、試作、説得、用水路作りなど、様々な苦勞をして米づくりを広めた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りをする。 	<p>☞藤田貞元が米づくりを広めるために行った営みの特色や相互のかかわりを既習内容や他者の発言を通して考え、適切に表現している。</p> <p style="text-align: right;">【ノート、発言】</p>
深く考える	⑩ (本時)	<p>【「意味」の追究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料1から、入植当時の旭川兵村では米づくりが禁止されていた事実を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【新たな問い】 貞元は、なぜ禁止されていたのに米づくりを広めたのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○問いに対する考えをもつ。 ○考えを交流する。 ○資料2を読み、貞元の思いを考える。 ○問いに対する答えを自分でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【新たな問いに対するまとめ】 米は必ずできるという信念と、人々の生活を豊かにしたいという強い思いがあったから。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りをする。 	<p>☞禁止されていた米づくりを広めた藤田貞元の信念や思いを既習内容や新たな資料、他者の発言を通して考え、適切に表現している。</p> <p style="text-align: right;">【ノート、発言】</p>
	⑪	<p>【単元の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習してきたことを基に、現在の旭川の稲作の発展と、藤田貞元の営みとのつながりを考える。 ○現在、稲作の仕事に従事している人の話を聞く。 ○これからの旭川の発展について考える。 ○単元を通じた学習の振り返りをする。 	<p>☞旭川のよりよい発展について考え、表現している。</p> <p style="text-align: right;">【ノート、発言】</p>

10 本時の授業構成

(1) 目標

禁止されていた米づくりを広めた藤田貞元の思いを既習内容や新たな資料、他者の発言を通して考え、適切に表現できるようにする。 (思考力・判断力・表現力)

(2) 展開

過程	学習活動	教師のかかわり	学習評価
問いをもつ場	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題のまとめと、人々の願いを確認する。 ○資料1から、当時の兵村では米づくりが禁止されていたことを知る。 ○本時の問いを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料1を提示する (アンチセルの報告、中隊長の命令) ○本時の問いを提示する。 	
	貞元は、なぜ禁止されていたのに米づくりを広めたのだろうか。		
考えをつなぎ深める場	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容を基に問いに対して考えをもつ。 ○ペア、全体で考えを説明し合う <ul style="list-style-type: none"> 「人々が米を作って食べたいという願いを強くもっていたから。」 「小豆のできるころには米もできると信じていたから。」 「試作が成功すれば許可してもらえと思ったから。」 ○資料2を読み、貞元の米づくりに対する思いを考え、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容を基に考えさせる。 ○問い返しをすることで考えを深めていく。 ○学級としてのおおよその答えをまとめていく。 ○資料2を提示する。(貞元の論文の要約) ○米づくりを広める貞元の問いを問う。 	
	米づくりを広めた貞元の思いとは、何だろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> 「北海道は気温が低い米はできる。」 「米づくりをすると、収入が増える。」 「米づくりが広まれば、人々の生活は豊かになる。」 「国のためにも、人々のためにも米作りを広めることは大切だ。」 「貞元は当時の人々だけでなく、未来の人々の生活も考えている。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめのときに用いさせたい語句を強調した板書をする。 ○問い返しをすることで考えを深めていく。 	

過程	学習活動	教師のかかわり	学習評価
答えをまとめる場	<p>○問いに対する答えを自分でまとめ、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>米は必ずできるという信念と、人々の生活を豊かにしたいという強い思いがあったから。</p> </div>		<p>☒禁止されていた米づくりを広めた藤田貞元の思いを既習内容や新たな資料、他者の発言を通して考え、適切に表現している。</p> <p style="text-align: center;">【ノート、発言】</p> <p>※見取りの具体は (3) 評価の具体参照</p>
学びを振り返る場	<p>○貞元の営みや思いを基にしながら学習の振り返りを書き、交流する。</p> <p>「貞元は、自分のことだけでなく、人々のために米づくりを広めたことが分かった。」</p> <p>「貞元が米づくりを広めたから、旭川は米づくりが盛んになったと思う。」</p>	<p>○「貞元の営みや思い」という視点で書くという条件を与えてから学習の振り返りに取り組ませる。</p>	

(3) 評価の具体

◎十分満足できる状況 (A)

「藤田貞元が米づくりを広めたのは、米は必ずできるという信念と、当時や未来の人々の生活を豊かにしたいという強い思いがあったから。」

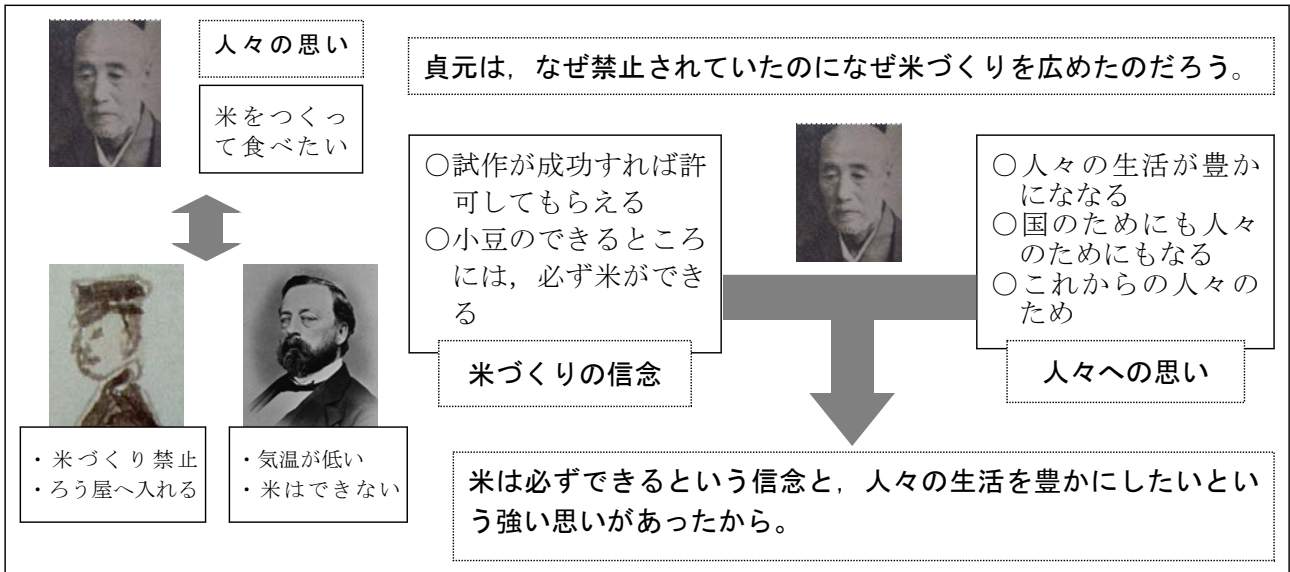
○おおむね満足できる状況 (B)

「藤田貞元が米づくりを広めたのは、米は必ずできるという信念と、人々の生活を豊かにしたいという強い思いがあったから。」

△努力を要すると判断される児童に対する具体的な手立て

- ・貞元の思いに関する板書に注目させるとともに、まとめの定型文を示す。

(4) 板書計画



(5) 活用する資料

	資料の主な内容	提示の仕方と工夫	活用させるときの視点
資料1 実感的側面に関する資料	・アンチセルの報告と中隊長の命令 気温・水温が低い 稲作の禁止と営倉の罰	・写真と吹き出しを使うことで、稲作禁止の事実とその理由を実感的につかませる。	・貞元の営みと「禁止」という事実の「ズレ」を明確にする。
資料2 共感的側面に関する資料	・米づくりについての貞元の思い 「米づくりが広まれば人々の生活は豊かになる」 「北海道で米づくりを広めることは大切なことだ」	・歴史的仮名遣いの文章を児童に分かりやすい平易な文章に意識して提示する。	・困難を乗り越えて米作りを広めた貞元の思いに気付かせる。

11 教材開発に関する参考文献・参考ホームページ、取材先など

□参考文献・ホームページ

- ・『旭川叢書 史料旭川屯田』 玉井健吉 昭和55年
- ・『旭川屯田開拓』 高垣仙蔵 昭和62年
- ・『旭川叢書 上川屯田物語』 金巻鎮雄 平成17年
- ・『旭川叢書 旭川の石碑』 菅野逸一 平成4年
- ・『石狩国上川郡水田概況』 殖民官報第3号 明治34年
- ・公益財団法人大日本農会 <http://www.dainihon-noukai.jp/>
- ・明治の礎 北海道開拓 <http://suido-ishizue.jp/index.html>

□取材先

- ・旭川兵村記念館 旭川市東旭川南1条6丁目